

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	西成区
学 校 名	千本小学校
学校長名	長谷 由紀夫

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・千本小学校では、第6学年 61名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

本校の平均正答率は、全国の平均正答率と比べて、国語で12.8ポイント、算数で13ポイント、理科で18.1ポイント下回る結果となった。領域別に見ると、国語の「話すこと・聞くこと」が16ポイント、「書くこと」が14.1ポイント、「読むこと」が11.7ポイント下回った。算数では「数と計算」が14ポイント、「図形」が11.7ポイント、「測定」が15.8ポイント、「変化と関係」が11.2ポイント、「データの活用」が13.8ポイント下回る結果となった。理科では、「エネルギー」が14.9ポイント、「粒子」が15ポイント、「生命」が21.1ポイント、「地球」が17.5ポイント下回った。

児童質問では、大阪府教育委員会が重要視している7の質問のうち、肯定的な回答が全国平均を上回る質問が3つあった。「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問では1.8ポイント、「将来の夢や目標を持っていますか」の質問では2.4ポイント、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問では0.5ポイント上回ることができた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

話し手の発言や書き手の文章から目的や意図を考える問題で全国との差が17～23ポイントあり、正答に近い選択肢を選んでしまう誤答が多かった。資料の読み取りと合わせて、選択肢の文章や言葉の理解に課題があると考えられる。また、「あつい」という漢字の書き取りも正答率が低く、漢字の使い方や意味の理解が十分でないといえる。また、問題文を読み取ったうえで、指定された要件を満たしながら自分の考えを書く問題では、無回答率が高く、問題文をじっくり読み、自分の考えを整理することが難しいと考えられる。

〔算数〕

分数の足し算の問題で正答率が低かった。正しい分母を書くことが難しく、共通する単位分数を考えることに課題が見られた。共通する単位分数を考えて、その幾つ分かを言葉や数で記述する問題でも無回答率が22%と高かった。また、問題解決に必要な事柄を判断し、求め方を記述する問題も18ポイントの差が見られた。コンパスでの作図の仕方の問題も全国との差が22ポイントあり、共通する点として、問題解決の筋道を考えたり、表現したりするところに課題があるといえる。

〔理科〕

実験の条件について考える問題で25～34ポイントの全国との差が見られた。実験の主旨を理解しておらず、比較する条件の設定理解が不十分であるといえる。

質問調査より

「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問へ肯定的に回答する児童の割合が全国平均を8.7ポイント下回った。学習の理解度や自己肯定感に課題があり、「算数の勉強は好きですか」の質問へ肯定的に回答する児童の割合は25.2ポイント、「自分には、よいところがあると思いますか」の質問へ肯定的に答えた児童の割合は8.7ポイント全国平均を下回った。「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の質問では肯定的に回答する児童の割合が29.7ポイント全国平均を上回っており、ICT機器の使用頻度は高い。

今後の取組(アクションプラン)

- ・国語科の「読む」領域の研究授業を各学年が実施することで、教員の指導力を高め、児童の読む力を高める。
- ・総合的読解力の育成を進める。
- ・学力向上部会を毎月1回実施し、学力向上の取組を検討する。
- ・児童が国語や算数の反復学習を進められる「千本タイム」を高学年で学期に1回、実施する。
- ・人権教育部を中心に自己肯定感を高める取組を検討する。
- ・ICT機器の効果的な活用方法について学力向上部とGIGAスクール部が連携し検討する。
